

【ねがいましては】

第85号

平成8年5月25日

共和珠算学習塾

「迷い」

今までに何度も【ねがいましては】の中で書かせていただきました学校教育の「教科書に縛り続けながらの授業」→現実。と、私の願いである「人としてのこころを磨く授業」→理想。

どちらを選択しても生徒と私、ご父兄の方々との間に「授業料」という現実が介在することで、はたしてどちらを優先させるべきか?なかなか解決されそうにありません。私たちの社会、少なくともこの日本という国の中のみに照準を合わせた時、国のために「働く人材」にどのように仕上げるか?を考えた時、私の中の「迷い」はさらに深くなります。自分の中に生きることへの「信念」を築き上げ、それに向かって力強く生き抜こうとする姿こそが私の理想とする「ひと」です。その姿は他の人のこころをも動かします。

人が力強く生きようするために大切なものは「人のこころ」だと思うようになったのは、この仕事に就いて幾度となく「こころ」に魅せられてきたからかもしれません。その対象は「子どもたち」です。

だからこそ、子どもたちに対し恩返しとして「こころ」を伝えることがわたしの勤めだと確信しています。それにはどうしても教科書中心、成績中心の在り方に疑問を感じます。この方法では「知識」は育てられても「こころ」を充分に育ててあげられないと思います。幼少期から「こころ」を身につけることが本来の教育だと思います。日々の生活の中から生まれる「ひと」と「ひと」とのかかわり合いの中から生まれるもの学ぶことが「勉強」と呼ばれるものになっていただきたい。となりにいるひとの「こころ」を気遣い、その子のこころになりきれる「思いやり」を身につけることこそが子どもたちには必要だと思います。

それを邪魔するものが「教科書中心の勉強」だと思います。塾内で中間テストや期末テストに追われ、ついつい我を忘れて「焦り」を感じながら厳しく生徒に当たってしまう自分がいます。授業が終わりふと我に戻ると、何とも言えない寂しさ、刹那さが私を包み込んでいます。そして苦しみを伴った「迷い」が私を突き刺しています。おそらく学校で頑張っていらっしゃる先生方も同様なのかもしれません。

どなたでも結構です。この私の迷いを吹き飛ばしていただければと思います。人間教育があなたの仕事なのだと・・・。

現実は競争社会です。いざれは社会へと旅立っていく子どもたち、せめて子どもであるうちだけは人間教育をしっかりと身につけさせてあげたいと強く思います。

☆クイズ・・・子ども300人に聞いたところ、トランプを持っている人は105人、テレビゲーム機を持っている人は78人でした。さらに両方を持っている人は、両方とも持っていないひとのちょうど4分の1でした。両方とも持っている人は何人ですか。(桐・文128・2)

*小学校の文章題は、本を読んで情景を浮かべるのと同じで、いかに頭の中に「図・絵」が描けるかです。分数は割合の仲間であり、「~倍」の考えを使うと良いと思います。
むずかしいですね。がんばってください。